

通し番号	4 4 4 4
------	---------

分類番号	21-C8-35-01
------	-------------

(成果情報名) 止水池におけるオオクチバスの駆除について
(要約) 2009年4月に秦野市の公園の池で、刺網によるオオクチバスの駆除試験を地元関係者と協働実施した。内水面試験場既往の知見を参考に目合75mmと100mmの刺網を用いて、体長275～360mmの個体が15尾捕獲した。雌の生殖腺熟度指数（生殖腺重量÷肉質重量×100）は6.27～10.75と高く、産卵前に捕獲することができたと考えられる。経過観察では仔稚魚の出現が認められておらず、既往の知見を応用することで、効率的に実施できたと考えられる。
(実施機関・部場名) 神奈川県水産技術センター・内水面試験場 連絡先042-763-2007

#### [背景・ねらい]

オオクチバスは北米産の外来魚で、内水面漁業や生態系への影響が大きいと言われており、外来生物法においては特定外来生物に指定されている。秦野市立の今泉名水桜公園内の池でオオクチバスが繁殖し、同池内の生態系が攪乱されるとともに、人為的に外部に持ち出される懸念があったことから、秦野市他と協働で駆除試験を実施した。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 体長の1/4～1/3の刺網目合（網目の大きさ）で捕獲効率が高い。目視観察から体長250～350mmサイズを確認できたので、目合75mmと100mmの刺網を用いたところ、捕獲個体は雄4尾、雌11尾の計15尾で、池内のほとんどのオオクチバスを捕獲できた。体長の実測値は275～360mmで、目合の選択は合理的と考えられる。
- 2 体長組成のヒストグラムは右に裾を引いており、人為的に持ち込まれた親魚と池内で繁殖した年齢が異なる群が混在していることと矛盾しない（図1）。
- 3 雌の生殖腺熟度指数（生殖腺重量÷肉質重量×100）は6.27～10.75で最頻値は9であった（図2）。本種の産卵期は5～6月で同指数は5以上を示し、産卵後は1前後まで減少するとされる。よって今回は、産卵前に捕獲することができたと考えられる。
- 4 駆除試験後の経過観察ではオオクチバス仔稚魚の出現が認められておらず、当試験場既往の知見を応用することで、地元関係者と当試験場が協働で実施した本取り組みは効率的に実施できた

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 既往の知見や基礎的な外来魚対策を活用して、関係者と協働で駆除試験を実施したものである。
- 2 更に大きな水面での効果的な対策を検討する必要がある。

[具体的データ]

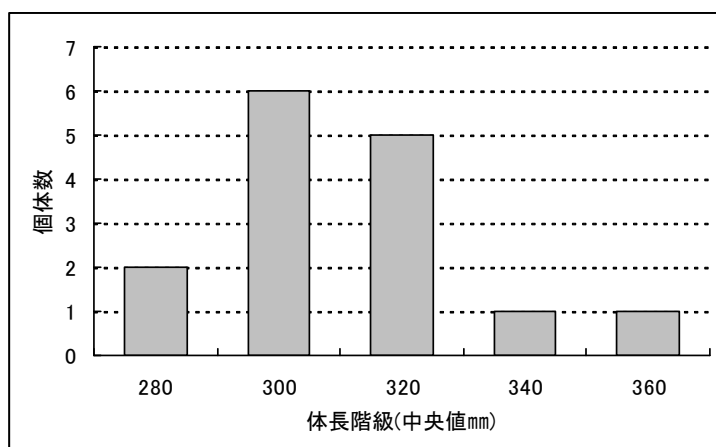


図1 オオクチバスの体長組成

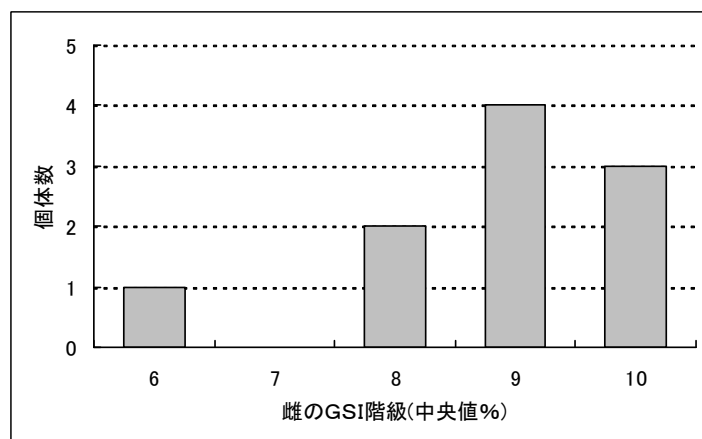


図2 オオクチバス雌のG S I 組成

[資料名]相澤 康・勝呂尚之(2010)第25回神奈川県水産技術センター研究発表会要旨

[研究課題]生態系復元対策

[研究期間]平成21年度

[研究担当者]相澤 康